

## (株) 内田老鶴圃、内田悟会長を偲ぶ



(株) 内田老鶴圃の内田悟会長氏が2014年2月22日、享年78歳でお亡くなりになられた。私達、藻類学を学び、研究する者達には、座右に置いている多くの本を刊行してきて、藻類学分野の発展に貢献している出版社ではないかと思う。

内田老鶴圃の社史には、次のように書かれている：「会社の誕生は、1880年(明治13年、日本橋)でありました。初代圃主は、漢籍に造詣が深く、長三洲著「老鶴万里の心」を刊行して「内田老鶴圃」を社名としました。その社名が135年間受け継がれています。明治13年といえば、国会期成同が生まれた国会熱、民権熱の盛んな頃で、初代から二代目頃は、漢文学、人文科学といった人文科学系のもの、あるいは学校教育に準拠した教科書、副読本を出版しています。二代から三代目にかけては、翻訳本が積極的に出版され、日本での初訳本「罪と罰」(内田魯庵)やキルケゴール、ニイチェ、カントなどの翻訳本を出版しました。三代目から四代目へかけ、自然科学書に重点が向けられ、本多光太郎の物理学通論、藤原松三郎の代数学、微分積分学、山田良之助の材料試験法、岡村金太郎の日本海藻誌、須藤新吉の論理学綱要、井上清恒の生物学のほか、片山正夫の化学本論をはじめ永海佐一郎、山岡望、越山季一らによる化学書など、優れた学術図書が生まれ、日本の代表的出版社へと発展し、新世紀を迎え、科学・技術はもとより、社会情勢のすべての局面において変化に波たえず洗われる時代となりました。この激しい社会変化の中でも、学術専門出版社としての使命を念頭におき読者の要望に応え、さらによりよい学術図書の提供を続けていきたいと願っております。」

筆者が見る最新のカatalogでは、数学、物理学、工学、生物学、人文・社会(わずか)の分野で、出版精神は受け継がれて、特に、生物学では藻類分野が際立って多く出版されており、ほとんどの藻類関係の基本図書が刊行されている。

筆者が藻類学を学び始めたのは1959年(昭和34年)からであり、広瀬弘幸著「藻類学総説」が刊行された年であった。学部学生には少し高価な本であったが購入して、この本で藻類学の基礎知識を学んだ思い出深い本である。この本は、微細藻類から海藻まで書かれており、章の構成が独特な順序になって

おり、藻類学を学び始める者には、理解しやすい名著であった。形態や生活史の図版が多く挿入されており、長い間講義のプリントに引用してきた。内田悟さんが入社されたのは昭和38年であるので、先代の方がこの本に関わったと思う。多く増刷され改訂版も出されたが、お聞きしたところ活字等の磨滅で、絶版にせざるを得なかったと言われた、良い本を出す精神が出ていると、その時に思った。

大学院に進み、岡村金太郎著「日本海藻誌」が座右の書となった。この本は、当時絶版になっており古本屋で購入したが、革張の本で装丁がしっかりしており、非常にうれしかった記憶がある。発行をみると1936年(昭和11年4月)初版となっていた。日本海藻誌は、海藻研究者が種の同定には欠かせない本で要望が強く、1987年に、出版社としては活字のことで不本意であったが増刷したと内田悟さんから伺った。今でも手にはいるので、ぜひ、購入を進めたい本である。吉田忠生著「新日本海藻誌」は、内田悟さんの勧めで刊行されており、学名などが改訂されており大著である。種の同定にはこの2冊を比べて読むと興味深い。新日本海藻誌は、形態・生活史・分布が記載されているが、日本海藻誌には観察記録なども記述されており参考になることが多い。

内田悟さんが、5代社長になられたのが1968年(昭和43年)であるが、この頃から、特に藻類関係の本の刊行が多くなされた。私が内田老鶴圃の刊行した本に関わったのは、秋山、有賀、坂本、横浜編著「藻類の生態」1986年初版であった。執筆の話があった時、執筆者が名だたる方々であり、このような基本図書へ書かせてもらえるのがうれしく、多くの文献を読み返した。総説を書くことを若い時に関わると知識の整理になり、論文数で評価される最近の傾向の時ほど、必要なステップになるのではないかと思う。この本は、よく読まれ1997年に有賀祐勝先生が改訂版の編集をされた。

日本藻類学会の会員が、多く関わって書かれた本は、堀輝三編「藻類の生活史集成」第1～3巻ではなかろうか。日本藻類学会の中で企画されたと聞かされたが、この本は、微細藻類から海藻まで、ほとんど主要な種の生活史が、定められた書き

方で書かれており、非常に参考になる本である。会社としては、かなり低価格での刊行であったが、皆さんに喜んでもらえるのが、出版元の本望であると内田悟さんは言われた。淡水藻類でも、多くの本が刊行されている。廣瀬弘幸、山岸高旺編：「日本淡水藻類図鑑」は、珪藻類を除いた図鑑であるが、今までこの分野の図鑑がなかったので、門外者の私でも、時々、淡水藻を調べる機会があった時に手にしている。小林弘、出井雅彦、真山茂樹、南雲保、長田敬五著：「小林弘珪藻類図鑑 第1巻」は、珪藻を研究している者には待っていた本で、幾度も予告が出て刊行されなかった本で、出版元も気にされたことと思うが、この本も他社ではなかなか引き受けられない本であろう。内田老鶴圃で多くの期間をかけ出版してきたのは、「淡水藻類写真集」1～20巻までである。微細藻類、淡水藻関係の本は、あまり読みこなしていないので、刊行リストを示すが、必要な基本図書が刊行されている。

私が内田悟さんと息子さんの内田学社長さんとお会いしたのは、1999年、日本海藻協会のシンポジウムの懇親会の時である。その時に、利用されている海藻を中心とした本を出版できないかとお話した。おふたりとも、温厚な方で多くの参加者と話されていたが、このような場で、私の夢が簡単に受け入れられるとは思わなかったが、その時の感触では、期待が持てると感じた。

その後、「有用海藻誌」の内容の検討や執筆などを打ち合わせに、会社に伺い話し合いをもったが、おふたりの出版事業に関する方針を伺うことができた。長年にわたって読まれる学術書を出版したい。幸い広い倉庫を持っている。印刷、装丁にも気を使っていると言われた。編集者はできれば一人が良いと言われて、私が引き受けるようになり、その後、日本海藻協会の懇親会には、欠かさず参加されて執筆者に挨拶をされていた。最初の計画では、「有用海藻誌」の刊行は3年後くらいのつもりであったが、5年間かかり、予定頁も大幅に増えてしまったが、こころよく受け入れてくれた。この本の担当者は内田学さんであったが、内田悟さんも、最初は同席して下さり助言を受けた。また、「有用海藻誌」刊行には優秀な編集・校正者をつけて下さり誤植のない良い本となったことに感謝したい。

内田悟さんは、2006年（平成18年）に、会長に退かれて、学さんが社長さんになられた。生涯、学術関係の出版にこだわり、また、販路の狭い藻類関係の教科書とも言える基本図書に、売れることより必要な本の出版に情熱を注いで下さり、藻類関係者の一人として、深く感謝を持ってお別れの言葉に代えさせていただきます。

日本藻類学会の会員の皆様には、ぜひ、下記に示した(株)内田老鶴圃の刊行リストをみて下さることをお願いします。

#### 刊行リスト

1. 日本淡水化石珪藻図説— 関連現生種を含む—  
田中宏之著、B5,612頁、本体33,000円、2014年
2. 小林弘珪藻類図鑑 第1巻  
小林弘、出井雅彦、真山茂樹、南雲保、長田敬五著、  
B5,596頁、本体34,00円、2006年

3. 淡水珪藻生態図鑑— 群集解析に基づく—  
渡辺仁治編著、B5,784頁、本体33,000円、2005年
4. 有用海藻誌— 海藻の資源開発と利用に向けて—  
大野正夫編著、B5,596頁、本体20,000円、2004年
5. 新日本海藻誌— 日本産海藻類総覧—  
吉田忠生著、B5,1,252頁、本体46,000円、1998年
6. 原生生物の世界— 細菌、藻類、菌類と原生動物の分類—  
丸山晃著、丸山雪江絵、B5,440頁、本体28,000円、1997年
7. 日本海藻誌  
岡村金太郎著、B5,1,000頁、本体30,000円（1936年初版、1987年増刷）
8. 藻類学総説  
廣瀬弘幸著、菊版、636頁、本体10,000円、1981年（在庫なし）
9. 日本淡水藻類図鑑  
廣瀬弘幸、山岸高旺編、B5,978頁、本体38,000円、1977年初版、1997年増刷
10. 藻類の生態  
秋山優、有賀祐勝、坂本充、横浜康継編著、A5,640頁、  
本体12,800円、1986年初版、1997年増刷
11. 日本の赤潮生物 写真と解説  
福代康夫、高野秀昭、千原光雄、松岡數充編、B5,430頁、  
本体13,000円、1955年
12. 台湾産浮遊性藻類（英文）  
山岸高旺著、B5,448頁、12,000円、1992年
13. 藻類の生活史集成、第1巻 緑色藻類  
堀輝三編、B5,448頁、本体8,000円、1994年
14. 藻類の生活史集成、第2巻 褐藻・紅藻類  
堀輝三編、B5,422頁、本体8,000円、1993年
15. 藻類の生活史集成、第3巻 単細胞性鞭毛藻類  
堀輝三編、B5,400頁、本体7,000円、1993年
16. 藻類多様性の生物学  
千原光雄編著、B5,400頁、本体9,000円、1997年
17. 淡水藻類写真集1巻、1～10  
山岸高旺、秋山優編、B5,100シート、本体4,000円、  
1984年
18. 淡水藻類写真集2巻、1～10  
山岸高旺、秋山優編、B5,100シート、本体4,000円、  
1984年
19. 淡水藻類写真集3巻、1～10  
山岸高旺、秋山優編、B5,100シート、本体5,000円、  
1985年
20. 淡水藻類写真集4巻、1～10  
山岸高旺、秋山優編、B5,100シート、本体5,000円、  
1985年
21. 淡水藻類写真集5巻、1～10  
山岸高旺、秋山優編、B5,100シート、本体8,000円、  
2003年
22. 淡水藻類写真集6巻、1～10

- 山岸高旺, 秋山優編, B5, 100 シート, 本体 5,000 円, 1987 年
23. 淡水藻類写真集 7 巻, 1 ~ 10  
山岸高旺, 秋山優編, B5, 100 シート, 本体 5,000 円, 1987 年
  24. 淡水藻類写真集 8 巻, 1 ~ 10  
山岸高旺, 秋山優編, B5, 100 シート, 本体 5,000 円, 1988 年
  25. 淡水藻類写真集 9 巻, 1 ~ 10  
山岸高旺, 秋山優編, B5, 100 シート, 本体 5,000 円, 1989 年
  26. 淡水藻類写真集 10 巻, 1 ~ 10  
山岸高旺, 秋山優編, B5, 100 シート, 本体 5,000 円, 1989 年
  27. 淡水藻類写真集 11 巻, 11 ~ 20  
山岸高旺, 秋山優編, B5, 100 シート, 本体 7,000 円, 1993 年
  28. 淡水藻類写真集 12 巻, 11 ~ 20  
山岸高旺, 秋山優編, B5, 100 シート, 本体 7,000 円, 1994 年
  29. 淡水藻類写真集 13 巻, 11 ~ 20  
山岸高旺, 秋山優編, B5, 100 シート, 本体 7,000 円, 1994 年
  30. 淡水藻類写真集 14 巻, 11 ~ 20  
山岸高旺, 秋山優編, B5, 100 シート, 本体 7,000 円, 1995 年
  31. 淡水藻類写真集 15 巻, 11 ~ 20  
山岸高旺, 秋山優編, B5, 100 シート, 本体 7,000 円, 1995 年
  32. 淡水藻類写真集 16 巻, 11 ~ 20  
山岸高旺, 秋山優編, B5, 100 シート, 本体 7,000 円, 1996 年
  33. 淡水藻類写真集 17 巻, 11 ~ 20  
山岸高旺, 秋山優編, B5, 100 シート, 本体 7,000 円, 1996 年
  34. 淡水藻類写真集 18 巻, 11 ~ 20  
山岸高旺, 秋山優編, B5, 100 シート, 本体 7,000 円, 1997 年
  35. 淡水藻類写真集 19 巻, 11 ~ 20  
山岸高旺, 秋山優編, B5, 100 シート, 本体 7,000 円, 1997 年
  36. 淡水藻類写真集 20 巻, 11 ~ 20  
山岸高旺, 秋山優編, B5, 100 シート, 本体 7,000 円, 1998 年
  37. 淡水藻類 淡水産藻類属総覧  
山岸高旺著, B5, 1,444 頁, 50,000 円, 2007 年
  38. 淡水藻類写真集ガイドブック  
山岸高旺著, B5, 144 頁, 本体 3,800 円 1998 年
  39. 淡水藻類入門 ー淡水藻類の形質・種類・観察と研究  
山岸高旺編著, B5, 700 頁, 本体 25,000 円, 1999 年
  40. 世界の淡水産紅藻  
熊野茂著, B5, 416 頁, 本体 28,000 円, 2004 年
  41. 陸上植物の起源ー緑藻から緑色物へ  
渡辺信, 堀輝三訳, B5, 384 頁, 本体 4,800 円, 1996 年

大野正夫 (高知大学名誉教授)



### 死後も作り続けた海藻標本 ー横澤敏和氏の急逝を悼むー

本会会員 横澤敏和氏が去る 1 月 29 日の未明に亡くなられた。自宅で睡眠中の突然死で、享年 46 の若さであった。横澤氏は日本大学文理学部を卒業後、海洋調査会社スガ・マリンメカニックでダイバーとして働いていたが、30 代の頃に末期癌を得て退職。医学誌に載るほどの奇跡的な生還後、横浜清風高校で教鞭をとり、また東邦大学で故吉崎誠教授の指導のもと修士課程を修了した。相模湾を中心に海藻相の採集

調査を行い、膨大な数の押し葉標本を遺された。亡くなられた日も芝崎産海藻の押し葉を製作中で、横澤さん他界後も 1 週間、奥様 (ご家族は愛妻の久子さんと愛娘の佳澄さん (5 歳)) によって乾燥が続けられた (右の写真)。このたび奥様から、この製作中の標本を含む 1000 点が国立科学博物館 (科博) 寄贈されることになった。横澤氏の標本は吉崎一門の作法を継承してつくられており、2008 年の本誌 154 頁 (第 56 巻第 2 号) の写真にもみられるように美しいものが多い。海藻を愛し、最期まで海藻標本を作り続けたことに敬意を表するとともにご冥福をお祈りする。(北山)



左: 2008 年に科博の展示室を訪れた横澤氏。右: 最後となった標本 (2014 年 4 月 30 日撮影)